



2026年1月9日

各位

会社名 ビーウィズ株式会社
代表者名 代表取締役社長 飯島 健二
(コード番号: 9216 東証プライム)
問合せ先 常務執行役員 CFO 甲田 雄一郎
(TEL 03-6631-6005)

2026年5月期第2四半期（中間期）の連結業績予想と実績値との差異
および特別損失の計上に関するお知らせ

2025年7月11日に公表いたしました、2026年5月期第2四半期連結累計期間（2025年6月1日～2025年11月30日）の連結業績予想と本日公表の実績値に差異が生じましたので、下記のとおりお知らせいたします。
また、下記のとおり特別損失（減損損失）を計上いたしましたので、併せてお知らせいたします。

記

1. 2026年5月期第2四半期連結累計期間の業績予想値と実績値の差異

(2025年6月1日～2025年11月30日)

	連結売上高	連結営業利益	連結経常利益	親会社株主に帰属する中間純利益	1株当たり中間純利益
前回発表予想（A）	百万円 17,800	百万円 380	百万円 370	百万円 250	円銭 17.70
今回実績値（B）	17,939	527	536	245	17.35
増減額（B-A）	139	147	166	△4	—
増減率（%）	0.8	38.8	44.9	△2.0	—
（参考）前期第2四半期実績 (2025年5月期第2四半期)	18,390	855	848	560	39.75

2. 差異の理由

2026年5月期第2四半期連結累計期間の実績は、売上高は特定の大型公共案件の規模縮小を補うべく、新規案件の獲得および既存案件の拡大に努めた結果、概ね計画通りとなりました。その上で、営業費用に関しては、売上高の水準に応じたコスト適正化を進め、2025年5月29日に開示した短期プランに沿って間接人件費率の抑制に向けた取り組みを実施し、また、同プランに基づき拠点総席数の適正化に向けたリストラチャーリングの取り組みも当中間連結会計期間をもって完了しました。コスト適正化の取り組みが、計画を上回る効果を挙げたことで、営業利益および経常利益については大きく計画を上回る結果となりました。

なお、一部の固定資産において減損損失を計上したことにより、親会社株主に帰属する中間純利益については概ね計画通りの結果となりました。

3. 特別損失の計上

当社の保有するソフトウェア資産である一部の業務用システムについて、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき直近の動向を踏まえた将来の回収可能性を検討した結果、特別損失として減損損失 161 百万円を計上いたしました。

当該事象の発生につきましては、本日公表しております「2026 年 5 月期第 2 四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）」に反映しております。

以上